



CREAM

International Festival for Arts
and Media Yokohama 2009

International Festival for Arts and Media Yokohama 2009

ヨコハマ国際映像祭 2009

プレス資料

2009年10月9日付

横浜国際映像祭 2009 実行委員会

【お問合せ先】 横浜国際映像祭 2009 実行委員会事務局（担当: 平(タイラ)、大西(オオニシ)）
〒231-0002 横浜市中区海岸通 2-8 第二吉本ビル 4 階 B TEL: 045-212-5661 FAX: 045-212-5630

公式 HP: <http://ifamy.jp> お問合せ Email: press@ifamy.jp

ごあいさつ

横浜市では、文化芸術、経済の振興と横浜らしい魅力的な都市空間形成というソフトとハードの施策を融合させた新たな都市ビジョン「文化芸術創造都市—クリエイティブシティ・ヨコハマ」の形成を目指しており、その一つのプロジェクトとして「映像文化都市づくり」を進めています。

「映像文化都市づくり」は、今後の成長が見込まれる映像コンテンツ系産業の集積を図ることにより、新産業の創出や雇用の拡大といった経済の活性化を目指すとともに、アジアの映像拠点を目指すために、様々な映像イベントを実施して横浜から映像文化を発信しています。これまで、東京芸術大学大学院映像研究科をはじめとする教育機関、映像コンテンツ系企業の誘致や様々な映画祭の開催支援、「ヨコハマE I Z O N E」といったイベントの開催などの取組を行ってまいりました。

今回、新たな取組として、メディアアート、CG、アニメーション、映画、写真など様々な映像を対象とした国際的な映像フェスティバル「ヨコハマ国際映像祭 2009」を、開港 150 周年を機に開催する運びとなりました。この映像祭は、映画祭でも現代美術展でもない新しい映像フェスティバルであり、国内外の約 40 名の作家が臨海都心部の会場で様々な映像作品の展示を行います。

また、作家による展示・上映だけでなく、市民が参加する映像プロジェクトやイベント、パフォーマンスなども展開される予定であり、海や港といった横浜ならではのロケーションで新しい映像表現の可能性をお楽しみいただける内容となっております。

皆様方におかれましては、初めて開催されるこの「ヨコハマ国際映像祭 2009」について、ぜひご期待くださるようお願い申し上げます。

横浜国際映像祭 2009 実行委員会委員長
川口 良一

テーマ： CREAM (Creativity for Arts and Media)

現在、一部の人のみが生産と流通に関わってきた映像は、デジタル化によって多くの人が自由に扱える道具へと変化しています。今後、私たちにとって文字だけではなく、映像が重要なコミュニケーション・メディアになる時代が必ず来るでしょう。多くの人が映像を使って社会に参加していくために、多様な個人のあり方が反映される表現と記録について考え、体験するフェスティバルになります。

コンセプト： DEEP IMAGES 一海としての映像

この地球上で映像とまったく無縁に住むことは難しくなりつつあり、私たちは映像によって世界とつながっていると言っても過言ではないでしょう。とりわけ、近年の技術発達によって一部の人のみだけではなく、多くの人にとって一般に生活する中で映像を見る、作るといった機会は急速に増えています。

つまり、映像は私たちにとって社会とどう関わっていくかという見方から考えるべき技術なのです。芸術表現においても、美術、映画、身体表現、音楽などの異分野が、こうした汎用性のある映像技術の発達によって共通の視覚文化に参加している同時代の状況をみてとれます。

従来であれば異なる固有の領域にあったものが、他の領域と接触することをこの映像祭では重要視していきます。古いメディアと新しいメディアが共存や相互交渉をする関係を保つことや、異なる芸術分野が積み重ねてきた固有の表現が混じり合っていくことで、これからの未来にはどのような表現が生まれていくのでしょうか。

また、映像は人が、異文化と接触すること、空を飛ぶことや移動すること、自然を観察することなどにおいても大きな役割を担ってきました。このように、視点を移動させることで、自分が眺めるだけではない別の見方による世界のあり方に気づくために映像はまさに欠かせないものなのです。そして、それらは表現と呼ぶものばかりではなく、私たちの歴史や記憶と結びつく記録メディアとしての映像です。現実のなかに潜むまだ気づかれていない可能性を映し出すこと、そして移動することによって複数の見方を獲得することは受容器としての映像のみならず、現実に関わりかけをおこなうものにさえなるでしょう。つまり、物事や出来事の表層にとどまるのではなく、私たちの間に横たわり、そのなかに身体を差し入れるような深みのある、海のような存在として映像をみなすことを提案したいと考えています。

ディレクター 住友文彦

住友 文彦(すみとも ふみひこ)

1971 年生まれ(38 歳)

金沢 21 世紀美術館建設事務局学芸員、NTT インターコミュニケーションセンター学芸員などを経て '06 年～ '08 年まで東京都現代美術館事業企画課企画係長。' 日中韓の若手アーティストを紹介する「アウト・ザ・ウィンドウ展」(国際交流基金アジアセンター／東京／2004)、「Possible Futures: アート&テクノロジーの過去と未来」展(ICC／東京／2005)などを企画。'07 年に中国を巡回した「美麗新世界」展などで、日本の現代美術を海外へ紹介する企画にも関わる。主な共著に、「身体への贈与」(『表象のディスクール 6 創造』、東京大学出版会、2000 年)、「映像の中へ」(『21 世紀の出会い—共鳴、ここから』、金沢 21 世紀美術館、淡交社、2004 年)、「キュレーターになる！」(フィルムアート社、2009 年)がある。特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウの副理事も務める。

開催概要

- 名称 ヨコハマ国際映像祭 2009
- テーマ CREAM [Creativity for Arts and Media]
- 会期 2009年10月31日(土)～11月29日(日)【30日間】*会期中無休
- 開場時間 11:00～19:00(土日祝は10:00～19:00)
- 会場 新港ピア、BankART Studio NYK、東京藝術大学大学院映像研究科馬車道校舎、他サテライト会場
- 入場料 一般 1300円(前売1000円)、学生・専門学校生 1000円(前売800円)
高校生 500円(前売300円)、中学生以下無料 *全ての会場共通
- 前売券 9月16日(水)～10月30日(金)(各プレイガイドにて販売)
- 当日券 当日券の販売は、下記の場所にて行います。
<チケット販売場所>新港ピア、BankART Studio NYK、各プレイガイド
- 主催 横浜国際映像祭 2009 実行委員会(横浜市、(公財)横浜市芸術文化振興財団)

■事務局所在地

横浜国際映像祭 2009 実行委員会事務局

〒231-0002 横浜市中区海岸通 2-8 第二吉本ビル 4階 B TEL:045-212-5661 FAX:045-212-5630

■公式HP:<http://ifamy.jp>

■後援:

経済産業省、文化庁、財団法人デジタルコンテンツ協会、神奈川県、神奈川新聞社、NHK 横浜放送局、株式会社テレビ神奈川、CG-ARTS 協会(財団法人 画像情報教育振興協会)、東京国立近代美術館フィルムセンター、財団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー、アメリカ大使館、インドネシア共和国大使館、ブリティッシュ・カウンシル、オランダ王国大使館、カナダ大使館、スイス大使館、スペイン大使館、ベルギー王国大使館、駐日ポーランド大使館

■協賛:

東京工芸大学、相鉄グループ、株式会社ファンケル、アサヒビール株式会社、川本工業株式会社、コカ・コーラ セントラル ジャパン株式会社、株式会社横浜銀行、横浜信用金庫、東京ガス株式会社、

■助成:

モンドリアン財団、スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団、Asian Cultural Council (ACC)

■協力:

■協力:

アドビシステムズ株式会社、AVIX 株式会社、株式会社 INAX、エルメスジャポン株式会社、特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター、寿オルタナティブ・ネットワーク、SHIFT、ショートショート フィルムフェスティバル&アジア、CINRA.NET、全日本空輸株式会社、東京藝術大学大学院映像研究科、野毛 Hana*Hana、特定非営利活動法人 BankART 1929、FACT[Foundation for Art and Creative Technology]、フォステクス カンパニー、ブリリア ショートショート シアター、財団法人 横浜市緑の協会、横浜市立野毛山動物園、横浜美術館、株式会社ヨコシネ ディーアイエー、日本科学未来館、有限会社大平技研、Taguchi、グリーン建材株式会社、JFE プラリソース株式会社、ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター

■サテライト会場特別協力:ブルームバークL. P.

(順不同)

開催内容

【 展示 】

メイン会場 1. 新港ピア(横浜市中区新港 2-5)

映像はテレビや映画だけではなくありません。自然科学や文化人類学の調査の目的で記録された映像や、新たな土地への移動や、新たな乗り物の発明によって獲得した、新しい眺めを伝える映像もあります。こうした映像と、アートとして表現される映像を一緒に紹介します。

また、パフォーマンスなどのイベント、「誰もが自由に映像をつくり発信する時代」を反映した自主的なメディアが活動する拠点がおかれるなど、いつも何か新たなことが起こっている、アクティブな会場になります。

メイン会場 2. BankART Studio NYK(横浜市中区海岸通 3-9)

世界各国で活躍する、映像を用いる現代アーティストの作品を展示します。モニターやスクリーンに映されるものだけでなく、新しい写真表現の試みや、映像による空間インスタレーションなど、様々な形態があります。こうした展示を通じて、これからの映像コミュニケーションの時代に避けられない、「映像メディアとは何か?」「私たちにどんな影響を与えるのか?」といった根本的な疑問に関わる重要な作品を紹介します。

サテライト会場 野毛山動物園 / 黄金町バザール 1の1スタジオ

入園無料で公園のように市民に親しまれている野毛山動物園で国内のアーティスト3組の作品が、メイン会場に先駆けて楽しめます。港の歴史が刻まれた黄金町では、かつての映画の街・横浜にオマージュを捧げる作品を見ることができます。

【 上映プログラム 】

メイン会場 3. 東京藝術大学大学院映像研究科馬車道校舎(横浜市中区本町 4-44)

11月の土・日・祝日/計11日間に渡りアジアプレミアとなるピピロッチェ・リストの『PEPPERMINTA』などアーティストによる映画、CREAM コンペティション応募・受賞作品、日本の若手監督作品特集、日本、中国、エジプト、韓国、イギリスなど国内外の作家・キュレーターによるセレクション・プログラムなど、全21プログラムを上映します。

上映日:11/1(日)、11/3(火)、7(土)、8(日)、14(土)、15(日)、21(土)、22(日)、23(月)、28(土)、29(日)

※ 各回完全入替制 ※連日午前11時より当日上映回の入場整理券を配布

【 CREAM コンペティション 】

芸術表現の領域を越えた新しい映像表現が、私たちの今後の社会とどのように関わってゆくのか、その問いかけともなるオールジャンルの映像作品を募集し、世界42カ国から992件の応募がありました。

(募集期間:2009年5月1日(金)~7月31日(金) ※募集は終了いたしました。)

応募作品:

1. 分野を特定せず、多分野から映像に関する実験的、先鋭的な作品を期待。
2. 応募作品は上映、展示の他、インターネットを使った作品、パフォーマンス、屋外プロジェクトなど形式を問わない。
3. 応募者の年齢、性別、国籍を問わない。グループでの応募も可能。
4. 2008年5月1日以降に完成した作品であること。

賞:受賞作品の中から選りすぐりの作品を会期中に上映もしくは展示します。

CREAM 賞(1作品):賞金50万円/優秀賞(数作品):賞金10万円/審査員特別賞(数作品)

審査員: ※敬称略、50音順

- ・ 一次審査員:
宇川直宏(映像作家、グラフィックデザイナー、現代美術家、VJ、京都造形芸術大学教授)
千房けん輔(アーティスト、アートユニット「エキソニモ」メンバー)
土屋豊(映画監督、ビデオアート主宰)
- ・ 最終審査員:
浅井隆(アップリンク社長・プロデューサー・webDICE 編集長)
オウ・ニン[欧 寧](映像作家、アートディレクター、批評家)
四方幸子(NTT インターコミュニケーション・センター[ICC]学芸員、東京造形大学特任教授、多摩美術大学客員教授)
マイク・スタップス(FACT [Foundation for Art and Creative Technology]ディレクター)
諏訪敦彦 審査委員長(映画監督、東京造形大学学長)
山村浩二(アニメーション作家、国際アニメーションフィルム協会日本支部理事、東京藝術大学教授)

審査結果:※()内は制作国

CREAM 賞

『VOICE-PORTRAIT ~self-introduction~』松島俊介(日本)展示作品

優秀賞

『…niland 1』 マリウス・レネヴェイト、ロシオ・ロドリゲス(スペイン)上映作品

『HAND SOAP』 大山慶(日本)上映作品

『HACHIOJI: HOLE IN GAP- the crossing of zebra time』 津田道子、キャロライン・バーナード(日本・フランス)上映作品

審査員特別賞

『ダブルテイク』 ヨハン・グリモンプレ(ベルギー・ドイツ・オランダ)上映作品

『The Sound of eBay』 UBERMORGEN.COM (オーストリア・スイス・アメリカ・ドイツ)展示作品

受賞者のコメント:

CREAM 賞 松島俊介

「このような素晴らしい賞に選んで頂き、大変うれしく思っています。1年以上、WEB 上での映像表現を試行錯誤してきましたが、この作品は自分なりに見つけた1つの着地点だと思えます。それでも、何だかよくわからないものができてしまった、という完成直後の印象は今でも残っています。その点については今後も自問し続けていくことで、次の制作につなげていきたいと考えています。そしてヨコハマ国際映像祭を通じて、たくさんの方にこの作品を見て頂けることを願っています。この度は本当にありがとうございました。」

【 関連イベント 】

10/31、11/2 の2日間開催される日本人の若手アーティストやパフォーマーがコラボレーションによって作りあげるオープニング・イベントや、連携団体の協力によっておこなう上映会、音と映像のイベントなどを実施予定。

【 市民プロジェクト 】

市民プロジェクト -ビデオを片手にサポートクルー(市民ボランティア)が大奮闘。アーティストの制作現場やインタビュー、プレイベントとして実施してきた「AM(アート&メディア)クルーズ」のドキュメントなどはもちろん、独自の番組制作や、会期中の放送にもチャレンジ。

【 フォーラム 】

未来の映像を使う表現やコミュニケーションについて考えるには、それを語るのに相応しい言葉を作り出していくことが不可欠です。国内外の研究者やアーティストが集い、議論を積み重ねます。

■参加作家 87組 16カ国

■作品展示作家

Chantal Akerman／シヤンタル・アケルマン／ベルギー
ART LAB OVA／アートラボ・オーバ／日本
CHANNEL CREAM／日本
Chris Chon Chan Fui／クリス・チョン・チャン・ファイ／マレーシア
Fujihata Masaki／藤幡正樹／日本
Graffiti Research Lab／グラフィティリサーチラボ／イギリス
Hachiya Kazuhiko／八谷和彦／日本
Duane Hopkins／デュエン・ホプキンス／イギリス
Izumi Taro／泉太郎／日本
Alfredo Jaar /アルフレッド・ジャー／チリ
Jung Yeondoo／ジョン・ヨンドウ／韓国
Lim Minouk／イム・ミンク／韓国
Christian Marclay／クリスチャン・マークレイ／アメリカ
Aernout Mik／アーナウト・ミック／オランダ
Nomura Makoto, Nomura Yukihiko／野村誠+野村幸弘／日本
Nakazawa Hideki／中ザワヒデキ／日本
Eko Nugroho／エコ・ヌグロホ／インドネシア
Paulien Oltheten／ポーリー・オルトヘテン／オランダ
Steven Pippin／スティーヴン・ピピン／イギリス
Walid Raad／ワリッド・ラード／レバノン
remo／NPO法人remo／日本
Sato Masahiko／佐藤雅彦／日本
Shiga Lieko／志賀理江子／日本
SHIMURABROS. /シムラブロス／日本
Michael Snow／マイケル・スノウ／カナダ
Sun Xun／スン・シュン／中国
Fiona Tan／フィオナ・タン／インドネシア
Urban meme project／都市のミームプロジェクト／日本
Pablo Valbuena／パブロ・ヴァルブエナ／スペイン
Edwin van der Heide／エドウィン・ファン・デル・ハイデ／オランダ
Wang Jian Wei／ワン・ジャンウェイ／中国
Apichatpong Weerasethakul／アピチャツポン・ウィーラセタクン /タイ
Yamakawa Fuyuki／山川冬樹／日本
Yangachi／ヤンアチ／韓国
Yasuno Taro／安野太郎／日本
Artur Zmijewski／アルトゥール・ジミェフスキ／ポーランド

■上映作家

CREAM コンペティションプログラム、ル・ステュディオ エルメス スペシャルプログラムを除く
Sherif El Azma／シェリフ・アズマ／エジプト
Arai Chie／荒井知恵／日本
Chen Yongwei／チェン・ヨンウェイ／中国
Cheng Ran／チェン・ラン／中国
Ian Clark／イアン・クラーク
Dong Dayuan／ドン・ダヤン／中国
Max Hattler／マックス・ハトラー
Gim Hongsok／ギム・ホンソク／韓国
Ann Guest／アン・ゲスト
Hamaguchi Ryusuke／濱口竜介／日本
Hua Peng／ファ・ベン／中国
Ichinose Hiroco／一瀬皓コ／日本
Ikeda Chihiro／池田千尋／日本
Iwai Chikara／岩井主税／日本
Jin Shan／ジン・シャン／中国
Jun Sojung／ジュン・ソジョン／韓国

Jung Yumi / ジョン・ユミ / 韓国
Kim Hee-chul / キム・ヒチョル / 韓国
Kurosaka Keita / 黒坂圭太 / 日本
Let Me Feel Your Finger First / レット・ミー・フィール・ユア・フィンガー・ファースト
Li Ming / リ・ミン / 中国
Makino Atsushi / 牧野 惇 / 日本
Mariko Tetsuya / 真利子哲也 / 日本
Matsumura Hiroyuki / 松村浩行 / 日本
Abby Manock / アビィ・マノック
Katy Merrington / カティ・メリングトン
Steve McQueen / スティーヴ・マックィーン
Mizue Mirai / 水江未来 / 日本
Nakata Ayaka / 中田彩都 / 日本
Oi Fumio / 大井文雄 / 日本
Okamoto Masanori / 岡本将徳 / 日本
Okuda Masaki / 奥田昌輝 / 日本
Ookawara Ryo / 大川原亮 / 日本
Orikasa Ryo / 折笠 良 / 日本
Oyama Kei / 大山慶 / 日本
Park Chan-kyong / パク・チャンキョン / 韓国
Pipilotti Rist / ピピロッティ・リスト / スイス
Sato Fumiro / 佐藤文郎 / 日本
Shin Jiho / シン・ジホ / 韓国
Shinkai Taketo / 新海岳人 / 日本
Shiroki Saori / 銀木沙織 / 日本
Tim Shore & Gary Thomas, in collaboration with Ana-s Bouts
/ ティム・ショア、ゲイリー・トーマス、アナイス・バウツ (協力)
Tominaga Masanori / 富永昌敬 / 日本
Uekusa Wataru / 植草航 / 日本
Wada Atsushi / 和田淳 / 日本
Chirstinn Whyte and Jake Messenger / クリスティン・ホワイト、ジェイク・メッセンジャー
Dawn Woolley / ドーン・ウーリィ
Wu Junyong / ウ・ジュンヨン / 中国
Ye Linhan / イェ・リンハン / 中国
Yokota Masashi / 横田将士 / 日本
Yoo Eunju / ユ・ウンジュ / 韓国

(アルファベット順、作家名英語 / 作家名日本語 / 出身国) 10月9日現在

■会場アクセス

メイン会場1 新港ピア:

馬車道駅(みなとみらい線)下車、6番出口より徒歩10分。

メイン会場2 BankART Studio NYK:

馬車道駅(みなとみらい線)下車、6番出口より徒歩3分。桜木町駅(JR、市営地下鉄ブルーライン)より徒歩12分。

メイン会場3 東京藝術大学大学院映像研究科馬車道校舎:

馬車道駅(みなとみらい線)下車、5,7番出口すぐ。

サテライト会場 野毛山動物園:

JR 根岸線・横浜市営地下鉄「桜木町」駅下車徒歩15分。または、市営バス89系統「一本松小学校」行き「動物園前」下車すぐ／京浜急行「日ノ出町駅」下車徒歩10分

サテライト会場 NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター 1の1スタジオ:京急線日ノ出町駅から徒歩7分

チケット情報

	前売券	当日券	団体券	パスポート
一般	1,000円	1,300円	1,100円	2,500円
大学生	800円	1,000円	800円	
高校生	300円	500円	300円	

●中学生以下は無料です。●パスポートを除き、全て1日券です。●パスポートは、会期中有効です。●団体は10人以上です。●障害者手帳をご持参の方とその介護1名の方は無料です。●払い戻しはできません。●各社プレイガイドにて発売